

2021年度

川崎市視覚障害者情報文化センター  
事業報告書

社会福祉法人 日本点字図書館

# 目次

ページ番号

1. 総括	-----	1
2. 事業の成果	-----	1
① 点字図書館事業	-----	1
(ア) 図書の貸出・提供	-----	1
(イ) 点字図書・音訳図書・音声ガイドの製作	-----	3
② 相談・訓練事業の取り組み	-----	4
(ア) 相談・訓練実績	-----	4
(イ) 訓練生同士の懇親会の開催 (a、b)	-----	5
(ウ) 訓練生屋外交流会の開催	-----	6
③ 視覚障害者用具の展示と斡旋	-----	7
④ ボランティアの養成と連携	-----	7
(ア) 点訳関係	-----	7
(イ) 音訳関係	-----	8
⑤ 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携と啓発・普及	-----	9
(ア) 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携 (a～e)	-----	9
(イ) 啓発・普及 (a～d)	-----	10
⑥ 広報活動・イベントの開催	-----	11
(ア) 広報活動 (a～c)	-----	11
(イ) イベントの開催 (a～g)	-----	12
⑦ 防災・減災	-----	16
(ア) 新型コロナウイルス感染予防対策について (a～d)	-----	16
(イ) 緊急事態宣言発令期間中、 まん延防止等重点措置期間中の勤務体制について	-----	16
(ウ) 防災グッズの整備	-----	16
(エ) 緊急連絡網の整備	-----	16
3. 利用状況	-----	17
(1) 閲覧・貸出	-----	17
(2) 資料製作	-----	18
(3) 点訳ボランティア、音訳ボランティアの養成	-----	19
(4) 訓練・相談事業の取り組み	-----	19
(5) 啓発・普及	-----	20

## 1 総括

社会福祉法人日本点字図書館は、川崎市視覚障害者情報文化センター条例等に基づき、2021年4月1日から2022年3月31日まで、指定管理者として川崎市視覚障害者情報文化センター（以下センター）の管理運営を行いました。当センターの事業方針は、「視覚障害者市民にいつも頼られるセンター」を目指しています。図書の貸出・提供、自立支援訓練、用具の斡旋に加え、音声ガイド付き映画の体験上映、ヨガ、音楽コンサートなどのイベントを積極的に開催し、日常生活のQOLを高めると共に、文化に触れる機会を提供し、視覚障害者が一市民として心豊かな毎日を過ごせるよう支援を行っています。

今年度（2021年度）も新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら事業を進めた1年でした。2021年4月20日から8月1日までのまん延防止等重点措置、8月2日から9月30日までの緊急事態宣言、2022年1月21日から3月21日までのまん延防止等重点措置による制限を受けながらも、可能な限り事業を実施しました。

視覚障害者の方々も新しい日常に慣れ、これまでの生活を徐々に取り戻したように思われ、歩行訓練、パソコン・ICT（スマートフォン等）機器の訓練、各種の相談件数も大きく増え、用具の斡旋、イベント参加者も増加しました。また、医療機関、地域包括支援センターなどから紹介され来所する方が出てきており、地域資源の一つとして当センターが認知されてきています。図書の製作ではZoom等のオンラインを有効利用しボランティアの育成を行うとともに、点字図書、音訳図書、シネマ・デイジーの製作を行いました。イベントについては、前年度に比べ中止回数も減少し、当事者の参加も徐々に増え、前年を大きく上回る参加者数になりました。一方、図書の貸出・提供は、前年度の新型コロナ需要も落ち着き、例年通りになりました。

総じて、コロナ禍の中でセンターを利用する方が増加する中、感染に注意しながら新たな日常に対応しつつ事業を行った一年でした。

## 2. 事業の成果

### ① 点字図書館事業（図書の貸出・提供/製作/ボランティアの養成）

利用登録者、点字図書、CD図書・ダウンロードの状況をグラフに示します。

#### （ア）図書の貸出・提供

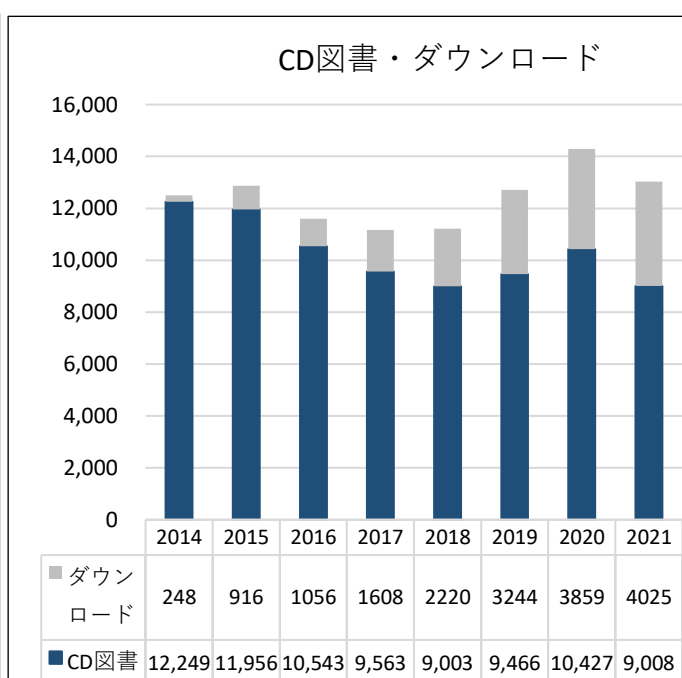
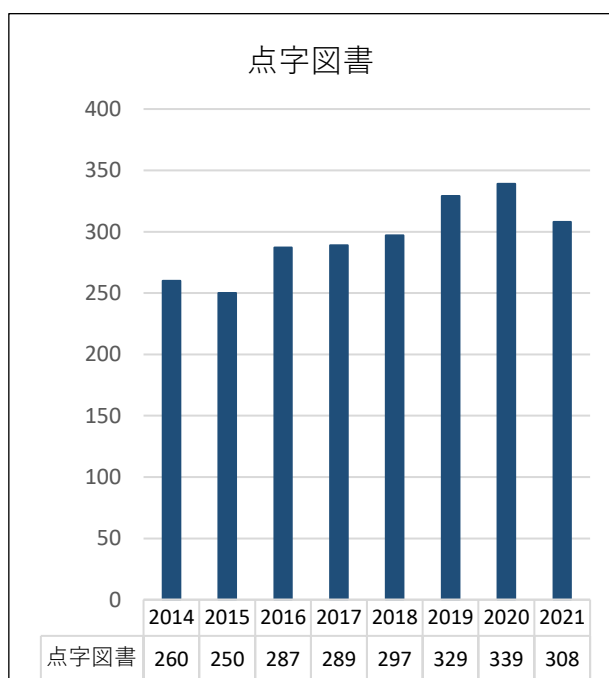
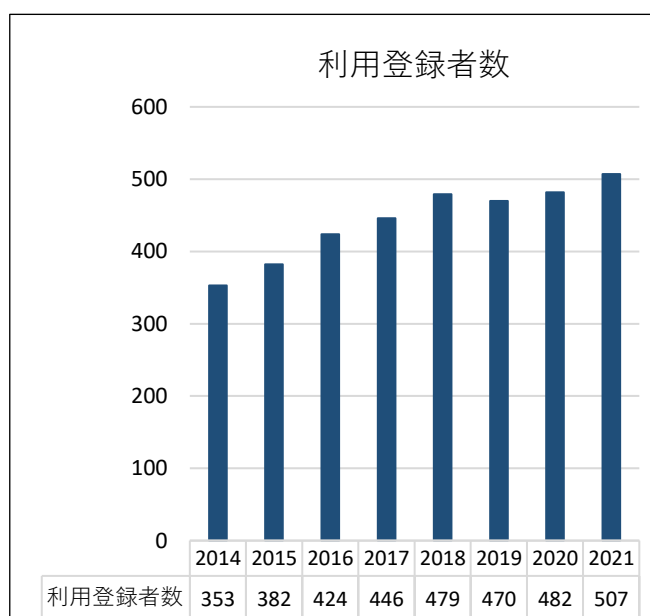
今年度の利用登録者数は前年度より25名増加し、センター開設以降初めて500人を超えました。一方で、利用件数は点字図書が308タイトル（前年度339タイトル）、音訳図書はCD図書が9,008タイトル（前年度10,427タイトル）といずれも前年度に比べ減少しました。一方、音訳図書の利用件数のうち、CD図書を利用せず個人所有のメモリーメディア（SDカード・CFカード・CD）に希望の図書をセンターがダウンロードして提供する方式（注1）は、前年度より約4%増加しました。（前年度3,859タイトル→今年度4,025タイトル）夏期の休館や年末の休館の時期に合わせて「ダウンロ

ードサービスおすすめセット（年間で9種のジャンル/各15タイトル）」を企画して利用件数を伸ばしました。CD図書とダウンロードサービスを合わせた合計数は、前年度に比べ減少していますが、前年度はコロナ禍で自宅にいる時間が増え、利用件数が特に増えた年でした。コロナ禍前の一昨年度（2019年度）に比べれば、今年度の利用件数は2.5%増えており、ほぼ例年なみの実績でした。利用者もコロナ禍の中で年間を通じて外出の機会が徐々に増え、日常を取り戻しつつあった年と思われます。

2021年10月に郵便配達サービスの変更がありました。利用者の手元に届くまでに少なくとも1日伸びたこと、また土曜日の配達がなくなったことは、貸出の回転に多少の影響を与えていると思われます。職員はそうした状況に合わせ、これまで翌日にセンターへ来る郵便局員に預けていた貸出図書を、日によっては終業後に直接郵便ポストに投函するなど、いち早く郵便のルートに乗せて到着するよう努めました。

CD雑誌の貸出は前年に比べ8%増加しました。（前年度3,837枚→今年度4,145枚）と増加しました。電話や来館の折に職員が情報提供をして雑誌購読に結びつけた地道なサービスの成果と思われます。

今年度のトピックスとして、これまでまったく利用のなかったデイジーオンラインによる提供が数件あり



ました。これは、インターネットを通してサピエに直接接続できるデジ再生機を利用する方へのサービスで、センターに電話で希望の図書をリクエストすれば、メディアのやりとりなく、インターネットを介して瞬時に送ることができるというものです。まだ数件の実績ですが、全国的にこのサービスを進めている施設はあまりありません。センターの貸出作業効率化の面でも有効なサービスですので、次年度は積極的に広報を行い、徐々に数を伸ばしたいと考えています。

注1) 当センターでは図書の提供方法のひとつとして、ダウンロードサービスを行っています。これは、パソコンの使用が困難な利用者のために、利用者に代わってサピエ図書館から希望の図書をメモリーメディア（SDカード・CFカード・CD）にダウンロードするサービスです。これによって、サピエ図書館でダウンロード可能なすべての資料をご利用いただけます。1回のリクエストで10タイトルまとめて提供することができ、利用者個人のメモリーメディアを使用するので貸出期間の制限もなく、人気の図書の予約待ちもありません。

#### (イ) 点字図書・音訳図書・音声ガイドの製作

今年度も引き続き、コロナ禍での製作体制で取り組んでまいりました。点訳についての個別の相談は、対面ではなく、電話やZoomを基本としました。校正作業は、視覚障害者と晴眼者がペアになって点訳された図書を視覚障害者が読み上げ、晴眼者が原本と照合します。これまでは一つの部屋に入っていた行っていましたが、コロナ禍になってからはZoomを使用したオンラインに切り替えています。前年度まではセンターがホストとなってZoomを開くことを原則としていましたが、校正者がZoom操作に慣れてきたため、センターがホストにならなくてもZoomミーティングを開けるケースが増え、効率的に作業を進めてもらうことができました。結果として前年度とほぼ同水準の47タイトルを製作することができました。

音訳ボランティア養成講座は、本来は前年度の事業です。2020年6月から全15回の講座を開講する予定でしたが、新型コロナ感染拡大により大幅に遅れ、2021年1月から3回のみしか実施できませんでした。そのため、本年度も継続して音訳ボランティア養成講座を行うことになりました。前年度未実施の12回の講座を8月5日無事終えることができ、新たに9名の音訳者を養成しました。音訳者の人数を増やすことができましたが、一方顕著になってきたのがデジ編集者との人数バランスです。音訳者が録音音源を仕上げた後、それをデジ図書にするためには編集作業が必要です。今年度、音訳者の増加に伴う編集者数が足りず、製作数が減少してしまいました。これについては、次年度に課題として検討を進める予定です。

プライベート制作については、音声版デジ、テキストデジ、プレーンテキスト、PDF化、テープのデジ図書化という多彩なニーズに対応いたしました。

シネマ・デイジーについては、目標を今年度から 10 タイトル増やし 30 タイトルとしました。ほぼ 30 タイトルは出来上がっていたのですが、最終チェック作業を受け持つ担当が、音訳ボランティア養成講座等も兼務しており業務が多忙であったため検聴という最終チェックに遅れが出てしまい完成までに至らず、目標を 9 タイトル下回ってしまいました。

## ② 相談・訓練事業の取り組み

### (ア) 相談・訓練実績

今年度もコロナ感染対策をとりながら相談・訓練を行いました。緊急事態宣言が発令され、夏期休館を終えた 8 月 17 日から 9 月 30 日までは、担当者は利用者と個別に相談しながら、緊急性のあるもの、ニーズの高いものについて対応しました。また 1 月から 3 月にかけてのまん延防止等重点措置下では、調理訓練以外のニーズに通常通り対応しました。屋外の歩行訓練は通常通りに、一つの部屋の中で行うパソコン・ICT（スマートフォン等）訓練は、可能な方に Zoom を使ったオンラインで行いました。いずれの訓練・相談も、連絡があってから実施に至るまで日を置かないように、スピード感をもって対応しました。

今年度の訓練・相談の利用件数は、前年度はコロナの影響を強く受けたとはいえ、大きく増加しました。訓練については、前年度に比べ約 40%増加しました（前年度 256 件/31 名→今年度 363 件/47 名）。特に歩行訓練は大きく利用が増えました。（前年度 88 回/8 名→今年度 153 回/15 名）。これらほとんどは訪問で行っていますので、職員は精力的に川崎市内をまわりました。なお、今年度、歩行訓練士の職員 1 名を新たに採用して、対応人数を増やしています。

ここ数年、相談件数が増えており、前年度に比べ約 30%増加しました（前年度 411 回/124 名→今年度 531 回/216 名）。おもな背景には、次の 3 つの点があげられます。1 点目は、利用者が高齢化していることです。そのため、長期計画を立てて新しいスキルを獲得するよりも、介護保険サービス利用を中心に生活を組み立て、困った時にそのつどセンターに相談したい方が増えてきています。2 点目は、センターが開所して 8 年が経ち、過去に訓練を受けられた方が生活環境の変化や障害の程度が進んだことにより、フォローアップ訓練を希望されるケースが多くなってきていること。3 点目は、医療や地域資源との連携が進み、比較的早期の段階でセンターにつながってきていることです。まだ障害を受け止めきれず、気持ちの折り合いがつかない方も多いため、相談から時間をかけながら寄り添い、必要な情報提供や用具の紹介を行うことからはじめています。精神的な落ち込みが大きい方、生活困窮や家族関係などに課題を抱えている方も多いため、幅広い支援を行っています。

また、ICT（スマートフォン等）の相談ニーズは高く、利用件数が年々増加する傾向にあります。（前年度 70 回/13 名→今年度 87 回/28 名）そこで今年度、職員配置を見直し、パソコン・ICT の担当職員 2 名を、2 名とも視覚障害当事者にしました

（前年度は、2 名のうち 1 名は晴眼者）。iPhone 操作に熟練した職員にしたことで対応力も向上し、利用する人も増えたものと思われます。iPhone の操作でわからなくなったときに、あきらめず気軽にたずねて習得できる環境が整いつつあります。

また、今年度、医療や地域資源との連携が進んだため、病院を退院したその日に歩行訓練士が自宅を訪問したケース、障害者手帳の取得前から相談を開始できたケースが出てきました。センターと地域資源との連携が進んだことは、特筆すべき事項と言えます。

< 訓練 >

	訓練	
	名	回
歩行	15	153
パソコン	4	83
ICT	6	29
点字	2	3
日常生活	8	48
その他	12	47
合計	47	363

< 相談 >

	相談	
	名	回
歩行	67	177
パソコン	31	65
ICT	28	87
点字	4	14
日常生活	66	161
その他	20	27
合計	216	531

(イ) 訓練生同士の懇親会の開催

a. Zoom を使用した利用者交流会(アクロス)の開催

「アクロス」とは川崎市に在住・在学・在勤している視覚障害者の比較的若い世代の自主的なサークルで、センターが協力して交流会を開催しています。20 代から 60 代前半までの方が、毎回テーマを決めて情報交換を行います。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため Zoom を利用し、オンラインで 4 回開催しました。「買い物や調理に関すること」「便利グッズの紹介」「外出時や日常生活において困ったこと。その解決方法」などの日常生活をテーマにした情報交換や「スマートフォンの使い方」をテーマにし、文字の入力方法や便利なアプリについてなど、ICT 機器利用に関する情報交換を行いました。各回の参加人数は、7 名～8 名。参加している皆さんにとって、日常生活上のちょっとした困りごとについて、話し合ったり相談する、良い機会となっているようです。次年度も引き続き、オンライン開催を主体として、定期的に行う予定です。

#### b. 就労者の情報交換会を開催

4月と8月にZoomを利用して2回行いました。「網膜色素変性症の就労女性情報交換会」には女性10名が、20代の社会人を対象にした「フレッシュ社会人座談会」には5名が参加しました。ほとんどの方がはじめての顔合わせであったため、最初はみなさん少し緊張していました。先輩にあたるコーディネータが仕事で困難な時にどう対応したか、会社の対応や依頼の仕方など、自分の経験談を話すことでリードしていただきました。仲間がいることの安心感や、工夫や心の持ちようを教えてもらって自分の仕事に活かしていきたいなど、このような機会を今後も期待する前向きな感想が参加者から寄せられました。

#### (ウ) 訓練生屋外交流会の開催

センターでは、すべての訓練が訓練生と指導員のマンツーマンで行われます。また自宅での訪問訓練も多いため、訓練生同士が交流をする機会はほとんどありません。そこで、訓練生同士の交流や親睦を深めることを目的に、年に1度川崎市の福祉バスをチャーターして屋外交流会を実施しています。センターの前身である川崎市盲人図書館時代から続いている恒例のお楽しみ行事のひとつです。前年度はコロナ感染拡大のため実施できませんでしたが、今年度は検温やこまめな手指消毒の実施、マスクの着用、黙食をお願いしたうえで開催いたしました。



10月27日(水)、訓練生7名と付き添い、センター職員合わせて21名で「都立神代植物公園」と「深大寺」に行ってきました。神代植物公園では温室とばら園を回り、温室では多種多様な植物に触れ合い、ばら園ではばらの香りを大いに楽しまれました。

また、深大寺では昼食として深大寺そばと天ぷらに舌鼓を打ち、その後深大寺を散策し、境内を中心に回ったり店先を中心に回ったりなど思い思いに楽しんでいただきました。

各所で自身の訓練の様子や感想を話し合う場面が見られ、和気あいあいとした雰囲気がとても印象的でした。訓練のモチベーションが向上した方、新しい訓練につながった方もいらっしゃり、良い交流の場が提供できたと思います。



### ③ 視覚障害者用具の展示と斡旋

今年度は1,372点（前年度1,087点）の斡旋を行いました。前年度はコロナ禍の影響で来所者・斡旋数とも減少しましたが、今年度はほぼ例年通りに回復しました。

視覚障害が進行し、従来の拡大読書器では文字情報の取得が困難になったため、文書読み取り装置を求め、来所する方が増えてきています。そこで、最新型の活字文書読み上げ機能付きの商品4点を展示品に加えました。いずれもカメラで撮影した文書画像をOCR機能で文字化し、音声で読み上げるというもので、2台はディスプレイ一体型で表示された活字を見ながら音声で確認できるもの、残り2台はAI機能を搭載した視覚支援ウェアラブルデバイスというもので、小型カメラを内蔵した本体をメガネのつるに取り付け、本体の側面をタッチして操作して、文書を撮影しOCR処理して音声で読み上げます。特に後者は川崎市の日常生活用具の給付対象にはなっていないため、市の担当課に商品説明と必要性をお伝えし、検討をお願いしました。



ウェアラブルデバイス

また、まぶしさを低減する遮光眼鏡の購入を希望される方が増えているのでレンズカラー26色の全色と偏光レンズの見本を取り揃えました。種類が多いため、利用者の見え方に合わせて適切に選定する必要があります。そこで外部の視能訓練士に依頼し、遮光眼鏡に関する研修を行ったうえで、商品を選定するためのチェックシートを用意し、それぞれの見え方に合わせて商品を斡旋できるようにしました。

用具の斡旋事業は、当事者のQOL向上につながる大切な事業で、今後も来所者が増えてくるように思われますので、視覚障害リハビリテーションの専門家である当センターの生活訓練スタッフと共に、課題解決のツールとして斡旋できるようにしてまいります。

### ④ ボランティアの養成と連携

#### (ア) 点訳関係

点訳技術のスキルアップ、センターからの情報提供を目的に、点訳関係者連絡会を12月1日に開催しました。会場参加及び、Zoomを使ったオンライン参加の両方ができるハイブリッド方式を採用しました。来場者8名、オンライン24名で、前年度（来場15名、オンライン17名）よりオンライン参加者の割合が増加し、感染拡大防止に寄与したと考えます。点訳ソフトウェアの画面を見ながら行う研

修でしたが、会場参加者とオンライン参加者の両者に画面が提示できるように、また、相互に会話ができるように工夫しました。

点訳校正者会議は、4月28日、11月20日の2回開催しました。オンライン開催を原則とし、来館いただいた方には、当センターのパソコンからオンライン参加をお願いしました。オンラインを基本としたため、遠方の方も参加しやすくなり、全体的に参加者の負担も軽減できたと考えます。

また、点訳校正者養成講座は、前年度後半3回が新型コロナ感染拡大により実施できませんでした。今年度はその3回を、5月12日・26日、6月30日に、オンラインで開催し（1名は来館）、6名の点訳校正者を養成することができました。



[点訳関係者連絡会の様子]

#### (イ) 音訳関係

センターでは点訳者と音訳者の養成講座を隔年で開催しています。今年度は点訳者の養成講座を開講する予定でしたが、前年度、音訳ボランティア養成講座が新型コロナ感染拡大の影響で全15回のうち3回しか実施できなかったため、今年度は残りの12回の講座を実施することとし、点訳者養成講座は次年度に開催することにいたしました。



音訳者の養成講座では文章を音声で読みあげる事が主な研修となるため、呼吸に配慮し、部屋の窓を開け、各個人をコの字型にパーティションで囲むなどの対策を行いました。受講生9名は全員がすべての講座を修了し、最終試験にも合格。8月5日より音訳者としてスタートを切りました。

音訳者の人数を増やすことができましたが、一方顕著になってきたのがデイジー編集者との人数バランスです。音訳者が録音音源を仕上げた後、それをデイジー図書にするためには編集作業が必要です。今年度、音訳者の増加に伴う編集者数が足りず、製作数が減少してしまいました。これについては、次年度に課題として検討

を進める予定です。

## ⑤ 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携と啓発・普及

多方面の方々と連携する機会を持つことができました。総合新川橋病院や、生活訓練関係の団体との情報交換をオンラインで定期的に行いました。また、小学校からの講演依頼に職員を派遣しました。

### (ア) 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携

#### a. 総合新川橋病院医療スタッフとのカンファレンス・情報交換

総合新川橋病院の眼科医師、視能訓練士、看護師と当センター職員の定期的なミーティングを今年度も毎月1回、全11回実施しました。情報交換や事例検討会を10回（Zoomによるオンライン）行い、感染が落ち着いた時期に病院を1回訪問しました。当日は、眼科スタッフの方々にセンター事業について説明し、視覚障害者の誘導方法をお伝えしました。また、病院スタッフを5つのグループに分け、12月から3月にかけて5回、当センターを見学していただきました。自立訓練に加えて、図書館事業、用具斡旋事業を行っているのに興味を持たれ、ボランティアにより点字図書・音訳図書が製作されていること、さまざまなサポートやグッズがあることを知り、“センターは視覚障害者にとって拠り所のような存在”と感じていただけたようです。

#### b. 視覚障害者の日常生活訓練に関する連絡会（笙の会）との情報交換

コロナ禍における各施設の訓練状況のほか、調理指導の方法、単身赴任を始める方への環境調整等、日常生活訓練に関する情報交換を5回行いました。（オンライン）

#### c. 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会事例検討会（オンライン）

視覚障害者に対する支援・訓練を行っている神奈川県内の学校・施設の集まりです。歩行訓練部会、コミュニケーション訓練部会、日常生活訓練部会に所属し、事例検討会や事務連絡会、職員研修に合計12回参加しました。1月18日に行われた職員研修では、神戸アイセンター病院田中桂子先生（心理カウンセラー）より支援者のメンタルヘルスと心理的傾向を講義していただきました。また、心理的な課題を持つ方への対応についてケース検討を行い、対人援助技術について学ぶ貴重な機会となりました。

#### d. パソコンボランティアグループとの情報交換会（オンライン）

2月24日に市内4団体パソコンボランティアグループとはじめて情報交換を行いました。センター、各団体の訓練状況や課題の報告、スマートフォンの便利なアプリに関する情報提供、センターに対する講習会のアイデアなど、有益な情報交換の場となりました。今後も定期的に会を開催し、連携していくことになりました。

#### e. 神奈川県立平塚盲学校の用具展示会

7月16日に盲学校内の用具展示会に出展しました。小学校から理療科の児童生徒、教職員の方がこられ、白杖、筆記具、音声時計、つめやすり、凸点シールなど定番商

品をじっくり見ていただきました。

(イ) 啓発・普及

市内の小学校の福祉の授業に、当センターの視覚障害者職員を派遣し、日常生活についての話、盲導犬歩行のデモンストレーションなどを行いました。また、市内の郵便局スタッフ向けのオンライン研修、民生委員の方への見学対応を行いました。

a. 今井小学校（4年生約120名、学校関係者及び教育委員会）

- ・日時 2021年6月17日
- ・場所 今井小学校
- ・内容 視覚障害者がどのようなことに困るのか、どのような便利グッズを使って生活しているかを話しました。また、盲導犬について関心が高かったため、盲導犬の育成や訓練について説明したり、町中で盲導犬を見かけたときに犬にはいけないことをお伝えし、歩行のデモンストレーションを見ていただきました。

b. 浅田小学校（4年生約40名）

- ・日時 2021年11月10日
- ・場所 浅田小学校
- ・内容 視覚障害者の生活、便利グッズ紹介を中心に話しました。グッズに興味津々な姿勢で、質疑応答も活発でした。「できること、工夫していること」を中心に話し、「できない、不便」だけではない視覚障害者の実際を知ってもらうよい機会となりました。

c. 市内郵便局職員向け研修（約90名）

- ・日時 2021年9月16日
- ・場所 オンライン
- ・内容 川崎市社会福祉協議会からの依頼により、市内の郵便局スタッフ向け研修講師として参加。視覚障害という障害について、また配慮や誘導方法について30分程度話しました。点字ブロックの上にはものを置かない、正面から声をかけるなどの注意点を伝えました。

d. 幸区の民生委員（7名）

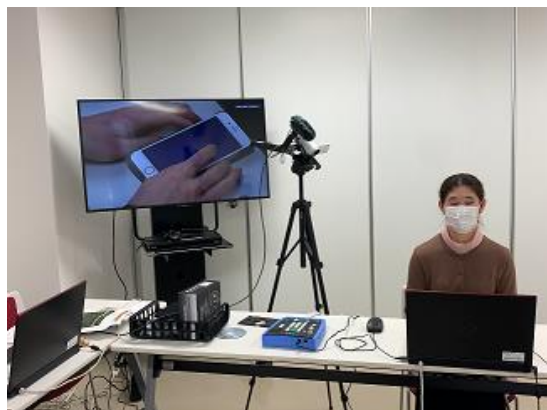
- ・日時 2021年11月17日
- ・場所 当センター
- ・内容 幸区の民生委員が来所され、視覚障害に関する講義と誘導體験を実施しました。用具ルームも見学し、当センターでは相談を受けてもらえることに関心をもって聞いていただきました。

⑥ 広報活動・イベントの開催

## (ア) 広報活動

### a. センター事業説明会

視覚に障害をもち様々な不便さを感じている方々が早期に当センターに繋がるように、主に行政の障害者担当や高齢者・障害者施設の方々に対して、毎年1回、センターの事業説明会を行っています。前年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催できませんでしたが、今年度は1月29日に対面形式の説明会を予定しました。募集したところ36名もの申し込みがあり、まん延防止等重点措置期間中で感染者も増加している時期でしたので、急遽オンラインに変更して開催しました。21の施設（区役所/地域包括支援センター/就労援助センター/総合リハビリテーション推進センター/病院）から28名の参加があり、当センターから、図書の貸出、歩行訓練、パソコン訓練、iPhone訓練、生活訓練、便利な用具の斡旋などについて担当から具体的に説明しました。アンケート結果からは、センターの「事業内容」や「どのような支援が受けられるか」が理解できたようで、今後の連携に期待したいと思います。



### b. 聖マリアンナ医科大学病院の看護師への出張事業説明会

川崎市の中でも中核となる病院からセンターの事業内容及び、視覚障害者への対応について話をしてほしいとの依頼があり、11月24日に病院に出向き説明会を開催しました。当日は、30名近い看護師に、見えない・見えにくくなった方に対して、どのような支援を行っているかを具体的に説明しました。看護師の方々は、「急に視覚に



障害を持ち、不安に思っている患者様をこのまま退院させ家に戻してよいか。」をとても不安に感じていたようで、センターの支援内容を知ることによって、その後の対応が理解できたようでした。この説明会の翌週には、病院から紹介を受けた患者様から、退院した翌日にセンターに連絡があり、歩行訓練士が自宅を訪問したケースがありました。今後、継続的に説明会を行っていく予定です。

c. メディアによる広報

利用者・ボランティア・支援者の方々へ、以下のメディアにより広報を行いました。

● 新刊図書情報誌「ぶっくがいど」（偶数月発行）

2ヵ月に一度発行する情報誌です。新刊の点字図書・音訳図書・シネマデイジーのほか、DVD映画体験上映会、コンサート、読書会などのイベント情報、新商品情報などを掲載しています。点字版、CD版、墨字版の3媒体があります。

3月末発行数 点字 86部、音声デイジーCD版 203枚、墨字 298部

● メールマガジン「アイ eye」（月2回、10日・25日に発行）

メールマガジンは、インターネットを通してパソコンやスマートフォン、携帯電話に送信するメールの広報誌です。タイムリーな情報、イベントの紹介、センター周辺の変化、職員のコラム、図書や用具の紹介などが掲載されています。読者からは「役立つ情報が助かる」「センター職員をより身近に感じる」と好評をいただいています。

3月末登録者数 301人

● 音声版メールマガジン「音声版アイ eye」（奇数月発行）

メールマガジンはとても好評をいただいておりますが、パソコン、スマートフォン、携帯電話の利用者のみに限定されます。もっと多くの方に利用していただきたいと考え、メールマガジンの音声版を発行することにしました。2ヵ月、4号分をまとめ、合成音声で読み上げた音声版の雑誌を7月に創刊。貸出を開始しました。今年度は7月から5回発行。まだ利用者数は少ない状況ですが継続的に広報してまいります。

2月末貸出者数 13名

\*なお、音声版メールマガジン「音声版アイ eye」発行に伴い、それまで奇数月に発行していた、「川崎アイ eye センターだより」は閉刊しました。

● ホームページ <http://www.kawasaki-icc.jp/>（毎月・随時更新）

(イ) イベントの開催

川崎市は映像や音楽文化の振興・普及を促進しています。視覚障害者市民もこれらの文化に触れることができるように、例年、多数のイベントを開催しています。

今年度は、春のコンサート、冬のコンサート、センターまつり、音声解説付きDVD映画体験上映会（毎月）、歴史的音源を聴く会（れきおんクラブ：隔月）、ヨガ教室（10回）、読書会（年2回）、半日サピエの日を予定していました。その中で、緊急事態宣言の発令期間、まん延防止等重点措置期間中は、一部イベントを中止いたしました。

a. 春のコンサート（クァルテット颯）

5月15日（土）午後12時30分から、ふれあいプラザかわさき2階ホールで開催しました。73名の申し込みがありましたので、全席指定席にし、席間を約1メートル離し、ホールの窓を開け、空気清浄機4台、送風機4台を配置しました。受付では、手指消毒、体温測定を実施。配布するプログラムは席の上に置き、受付後、すぐに着席してもらうようにしました。また、合間のトイレ休憩で密にならないように、こちらから列を指定して順番に行ってもらうようにしました。海外にも演奏旅行に行くプロのサクソフォーン奏者たちによる素晴らしいアンサンブルを、来場のみなさんに楽しんでいただきました。

なお、2月に開催予定の冬のコンサートはまん延防止等重点措置期間中であったため、中止しました。



[クァルテット颯]



[会場の様子]

b. 落語会

「川崎アイ eye センターまつり」は、当事者はもちろん、一般の健常者にも当センターを知ってもらうための施設公開イベントです。不特定多数の方が例年300名ほど来場しますが、まだまだ感染者数が多い時期でしたので前年度に続き中止しました。ただ、当日予定していた特別企画「三遊亭歌奴師匠による落語会」に



[三遊亭歌奴師匠]

については、12月11日（土）予定通り開催し、89名もの方が参加されました。高座は会議机を組み合わせ、赤い絨毯生地を張り合わせた当センター自作のもの。音楽は、実際の落語会で使用されている出囃子をかけて、落語会の雰囲気作りを心掛けました。全席指定にし、感染予防対策を講じたうえで開催しました。コロナ禍の中で、な

かなかイベントに参加できなかった当事者のみなさんに、大好きな落語を楽しんでいただきました。

c. 音声解説付き DVD 映画体験上映会

音声解説付き DVD 映画体験上映会はとても人気のあるイベントです。毎月 1 回、平日と土曜日の 2 日間同じ映画を上映し、各回定員 20 名、予約制にして、当日は参加者の座った位置を記録するようにしました。また、会場の多目的室にスピーカーを設置する工事を行い、ドルビーサラウンド方式で上映できるようにしましたので、耳で映画を鑑賞する視覚障害者にはとても好評を得ています。

前年度に比べ、中止した回数が 14 回から 6 回に減少し、来場者も 114 名が 342 名と 3 倍に増加しました。また、初の試みで 12 月 25 日のクリスマスの夜に、午後 5 時から特別映画会（上映作品：ノマドランド）を開催したところ、18 名もの方に参加していただきました。今年度は、合計で 20 回、342 名の方に参加いただきました。

d. 歴史的音源を聴く会（れきおんクラブ）

国立国会図書館が所有する約 48,000 点の SP レコードの音源コレクションをテーマに沿って紹介するイベント、「れきおんクラブ（歴史的音源を聴く会）」を年 6 回奇数月に開催しています。新型コロナウイルス感染状況に鑑み、9 月は中止しました。クラシックピアノ曲から服部良一作曲作品集、童謡、児童合唱団、コミックソングなど、様々な種類の曲を専門家の丁寧な解説つきで、参加者の方々にお楽しみいただきました。



[れきおんクラブ]

e. ヨガ教室

いつまでも健康でありたいと誰もが願うことですが、視覚障害者の多くは気軽に運動できる機会が限られているのが現状です。ヨガはマットを使って自分のペースで行うことができる、比較的取り組みやすい運動です。

ヨガの講師には、これまで視覚障害者にヨガを普及してきた「一般社団法人チャレンジド・ヨガ」の川崎エリア担当の方をお願いしています。安全第一を心掛け、まずは仰向けで呼吸の確認から座位で体をほぐし、毎回のテーマに沿ったポーズを分かりやすい言葉でゆっくりと、必要に応じて補助員が少しお手伝いをしながら進めていきます。



新型コロナウイルス感染対策として、前年度に引き続いて対面クラスの定員を 8 名にしました。また、Zoom を使ったオンラインヨガも継続して行いましたので、ヨガ教室を完全に中止した月はありませんでした。対面で行うヨガは年間 18 回で延べ 82 名、オンラインヨガは 10 回で延べ 24 名の方が参加され、前年度より 70%増加しました。

(当初、「レベルアップクラス」という一般クラスより上級者向けの指導を行う予定でしたが、対面とオンラインの両方を行いましたので、実施しませんでした。)



[ヨガ教室：対面クラス]



[ヨガ教室：対面・オンライン同時開催クラス]

#### f. 読書会

読書会是一个の作品を各自で読み、参加者で感想を話し合うイベントです。年 2 回行われ、盲人図書館時代から続く歴史ある行事となっています。

第 1 回の読書会を次の内容で開催しました。

- ・日時 2021 年 6 月 11 日 (金) 13:30~15:00
- ・会場 川崎市視覚障害者情報文化センター 多目的室
- ・作品 「5 2 ヘルツのクジラたち」 町田そのこ著
- ・参加者 6 名

テーマ作品は 2021 年本屋大賞を受賞した作品です。センターでデイジー図書の製作を行い、サピエ図書館において 2022 年 3 月 31 日までに延べ 6,541 人の方が利用した人気の図書です。作品の内容は、親子の問題・児童虐待・老人問題など現代日本の様々な問題が内包されており、参加者の方からも様々な感想が出されました。我が事のように主人公を心配したり、自分の経験を重ねたりして、深く作品を読んでいたようです。作品のラストは希望のある終わり方で、読後感も良く、十分に作品を楽しんでいただけたようです。

なお、2 回目の読書会は、神奈川県下において新型コロナウイルスまん延防止等重点措置期間であったため中止しました。

g. 半日サピエの日

サピエ図書館という電子図書館は、プレクストーク PTR3、iPhone (iPad)、パソコンを使用すれば、自分自身で好きな本を検索し、読むことができます。センターに図書を依頼することなく、いつでもどこでも好きな本を読むことができます。もっとみなさんにサピエを使いこなしてほしいと考え、自分の好きな機器を2種選び、操作体験ができる会を1月29日に「半日サピエの日」と称して開催しました。当日は4名が参加。体験後、1名にパソコン相談を行うことになりました。

## ⑦ 防災・減災

### (ア) 新型コロナウイルス感染予防対策について

- a. 除菌担当エリアを3グループに分け、毎朝朝礼後に実施するようにしました。また、部屋を使用した際には、使用した職員が使用後に除菌を行うようにしました。
- b. 受付で来所者の体温測定・体調チェックを行い、氏名、連絡先を記入後に入場していただき、万が一感染者が出た際にはすぐに連絡できるようにしました。
- c. ヨガ教室、音声ガイド付きDVD映画体験上映会のような人が集まるイベントについても、受付時に体温測定・体調チェックを行い、参加者名簿に記録しました。上映中は、出入口や窓を開け、大型空気清浄機2台を設置し、空気を循環させました。
- d. コンサート、落語会では、ふれあいプラザかわさき2階のホールに、70名以上の方が参加しました。会場内の席の間隔をあげ、空気の循環に配慮し、合間のトイレ休憩はエリアごとに順番に案内し、終演後の退出の際、密にならないように順番に退席するなどの配慮をしました。

### (イ) 緊急事態宣言発令期間中、まん延防止等重点措置期間中の勤務体制について

8月2日～9月30日まで緊急事態宣言が発令されました。センターでは職員の感染リスク軽減のため夏期休暇明けの8月17日から9月30日まで、職員を2つのグループに分け、半数がセンター勤務、半数が在宅勤務を行う交替勤務を行いました。なお、まん延防止等重点措置期間中は、感染予防をしながら通常勤務を行いました。

### (ウ) 防災グッズの整備

12月3日、山梨県東部・富士五湖でM4.1の地震が発生、8日に福島県沖、12日茨城県南部など、12月に全国的に複数の地震が発生しました。地震発生の時間によっては交通機関が停止し、帰宅できなくなる恐れがあります。イベントで来場している視覚障害者、ボランティア活動をしている方、職員など



が帰宅難民になってしまう可能性があります。そこで、万が一の時にセンターで一夜を明かすことができるよう寝袋を20個配備しました。また、飲料水、非常食なども保管していますので、万が一の被災時にも数日滞在することが可能です。

(エ) 緊急連絡網の整備

職員、パート職員へ緊急時にすぐに情報伝達できるよう、個人の携帯電話番号、メールアドレスを更新し、一斉にメールを送信し、受信可能な状態であることを確認しました。ゴールデンウィーク、夏期休暇、年末年始期間中などに、万が一職員が新型コロナウイルスに感染した際に、すぐに連絡を受けることができるようにしました。

3 利用状況

(1) 閲覧・貸出

	2021 年度	2020 年度
① 利用登録者数	507 名	482 名
(新規登録者数)	26 名	22 名
(点字使用者数)	126 名	125 名
② 利用登録団体	297 施設	293 施設
(新規利用登録団体数)	4 団体	3 団体
③ 点字図書の蔵書数および貸出・提供		
・ 蔵書数 (タイトル)	3,457 タイトル	3,289 タイトル
(冊数)	12,308 冊	11,873 冊
・ 蔵書数の変化 (新収書)	176 タイトル	141 タイトル
	350 冊	340 冊
・ 貸出数	308 タイトル	339 タイトル
	1,070 冊	1,153 冊
(内 他館借受)	78 タイトル	102 タイトル
	252 冊	312 冊
(雑誌)	229 タイトル	249 タイトル
・ コンテンツ提供数		
メモリーメディアへのダウンロード	4 タイトル	27 タイトル
④ 音訳図書の蔵書数および貸出・提供		
・ 蔵書数 (タイトル)	6,436 タイトル	6,185 タイトル
(枚数)	6,470 枚	6,218 枚

	2021 年度	2020 年度
・ 蔵書数の変化（新収書）	251 タイトル 252 枚	388 タイトル 388 枚
・ 貸出数		
(ア) カセットテープ	14 タイトル 73 巻	17 タイトル 112 巻
(イ) CD図書	9,008 タイトル	10,427 タイトル
(内 他館借受)	4,176 タイトル	5,122 タイトル
(ウ) CD雑誌	4,145 タイトル	3,837 タイトル
・ コンテンツ提供数		
メモリーメディアへのダウンロード	4,025 タイトル	3,859 タイトル
⑤ レファレンスサービス情報提供件数	332 件	102 件
(2) 資料製作		
① 点字図書の製作数		
(ア) 製作数	47 タイトル 158 冊	49 タイトル 180 冊
内訳		
委託製作数	20 タイトル 69 冊	19 タイトル 70 冊
委託外製作数	27 タイトル 89 冊	30 タイトル 110 冊
(イ) 寄贈	35 タイトル 78 冊	30 タイトル 82 冊
(ウ) プライベートサービス	7 タイトル	18 タイトル
② 音訳図書の製作数		
(ア) 製作数	92 タイトル	101 タイトル
内訳		
委託製作数	69 タイトル	82 タイトル
委託外製作数	23 タイトル	19 タイトル
(イ) デイジー編集	92 タイトル	101 タイトル

	2021 年度		2020 年度	
(ウ) 寄贈	20 タイトル		20 タイトル	
(エ) プライベートサービス	18 タイトル		17 タイトル	
内訳				
音訳	10 タイトル		8 タイトル	
テキストデイジー (合成音声デイジー含)				
	3 タイトル		6 タイトル	
プレーンテキスト	1 タイトル		1 タイトル	
PDF	1 タイトル		0 タイトル	
テープのデイジー化	4 タイトル		2 タイトル	
③ テキストデイジー図書の製作数	1 タイトル		3 タイトル	
④ シネマ・デイジー/音声ガイドの製作数				
製作数	21 タイトル		25 タイトル	
内訳				
センター内製作数	4 タイトル		8 タイトル	
委託製作数	17 タイトル		17 タイトル	
(3) 点訳ボランティア、音訳ボランティアの養成				
① 点訳ボランティアスキルアップ研修会				
開催回数	4 回		3 回	
受講者数	50 名		46 名	
	(会場 11 名+オンライン 39 名)			
② 音訳ボランティア養成講座				
指導回数	12 回		3 回	
延べ受講者数	108 名		27 名	
実受講者数	9 名		9 名	
(4) 訓練・相談事業の取り組み				
① 訓練				
訓練者実数	47 名	363 回	31 名	256 回
(新規訓練者数)	29 名		9 名	
内訳 (複数提供あり)				
歩行訓練	15 名	153 回	8 名	88 回
パソコン訓練	4 名	83 回	10 名	73 回
ICT 訓練	6 名	29 回	2 名	2 回

		2021 年度		2020 年度	
	点字訓練	2 名	3 回	0 名	0 回
	生活訓練(日常・調理)	8 名	48 回	7 名	66 回
	その他	12 名	47 回	4 名	27 回
②	相談	216 名	531 回	124 名	411 回
③	用具の展示と販売紹介	展示点数	372 点		345 点
		販売紹介点数	1,372 点		1,087 点

## (5) 啓発・普及

### ① 事業報告会の開催

1 月 訓練事業説明会 (オンライン) 参加者数 28 名

### ② 授業・講座への講師派遣

6 月 今井小学校「視覚障害者の日常生活について、盲導犬の役割について」

参加者数 約 120 名

11 月 浅田小学校「視覚障害者の日常生活について、できること・工夫していること」

参加者数 約 40 名

### ③ 訓練生交流会の開催

(ア)屋外交流会 (10 月) 植物園見学 都立神代植物公園の見学と深大寺散策  
参加者 21 名 (内訳: 訓練生 7 名+ガイドヘルパー 6 名+職員 8 名)

(イ) Zoom を使用した交流会

- ・ 当事者間の情報交換会 (4,7,10,2月) 開催数4回 延べ参加者数 29名
- ・ 就労女性の情報交換会 (4 月) 開催数 1 回 参加者 10 名
- ・ フレッシュ社会人座談会 (8月) 開催数1回 参加者数 5名

### ④ イベントの開催

(ア) 読書会 (6 月、2 月) ..... 6 月は来場数 6 名、2 月は中止

(イ) 春、冬のコンサート (5 月、2 月) ..... 5 月は来場数 70 名、2 月は中止

(ウ) センターまつり (12 月) ..... 中止

(エ) 三遊亭歌奴落語会 (12 月) ..... 来場者数 89 名

(オ) 半日サピエの日 (1 月) ..... 来場者数 4 名

(カ) 音声ガイド付き DVD 映画体験上映会 開催数 20 回 延べ来場者数 342 名  
(中止 6 回)

#### 【内訳】

- ・ 土曜・平日上映会 開催数 18 回(中止 6 回) 延べ来場者数 300 名
- ・ アンコール上映会 開催数 1 回 来場者数 24 名

・ 特別企画「クリスマス・レイトショー」 開催数 1回 来場者数 18名

(キ) 歴史的音源を聴く会「れきおんクラブ」 開催数 5回 延べ来場者数 54名  
(中止 1回)

(ク) チャレンジド・ヨガ 通常クラス 開催数 28回 延べ来場者数 106名  
(中止 対面 2回)

**【内訳】**

- ・ 対面 午前クラス 開催数 9回 (中止 1回) 延べ参加者数 34名
- ・ 対面 午後クラス 開催数 9回 (中止 1回) 延べ参加者数 48名
- ・ オンライン 午後クラス 開催数 10回 延べ参加者数 24名

\* 定員数を半数以下にするため、ヨガ教室レベルアップクラスは中止し、通常クラスのみとしました。